

令和4年度

教職課程

自己点検・評価報告書

令和5年2月

国士舘大学

## 国士舘大学 教職課程認定学部等一覧

### 1 学部学科等の課程

学部名	学科等名	認定を受けている免許状の種類	
政経学部	政治行政学科	中一種免（社会）	
		高一種免（地理歴史）	
		高一種免（公民）	
	経済学科	中一種免（社会）	
		高一種免（地理歴史）	
		高一種免（公民）	
		高一種免（情報）	
		高一種免（商業）	
	体育学部	体育学科	中一種免（保健体育）
			高一種免（保健体育）
武道学科		中一種免（保健体育）	
		高一種免（保健体育）	
スポーツ医科学科		中一種免（保健体育）	
		高一種免（保健体育）	
		養教一種免	
こどもスポーツ教育学科		小一種免	
		中一種免（保健体育）	
		高一種免（保健体育）	
理工学部		理工学科	中一種免（数学）
	中一種免（理科）		
	中一種免（技術）		
	高一種免（数学）		
	高一種免（理科）		
	高一種免（情報）		
	高一種免（工業）		
法学部	法律学科	中一種免（社会）	
		高一種免（公民）	
	現代ビジネス法学科	中一種免（社会）	
		高一種免（公民）	
文学部	教育学科	中一種免（社会）	
	中等教育課程	中一種免（保健体育）	
		高一種免（地理歴史）	

		高一種免（公民）
		高一種免（保健体育）
		特支一種免（知・肢・病）
		養教一種免
	教育学科 初等教育課程	幼一種免
		小一種免
	史学地理学科	中一種免（社会）
		高一種免（地理歴史）
	文学科	中一種免（国語）
		高一種免（国語）
高一種免（書道）		
21世紀アジア学部	21世紀アジア学科	中一種免（社会）
		中一種免（英語）
		高一種免（地理歴史）
		高一種免（公民）
		高一種免（英語）
経営学部	経営学科	中一種免（社会）
		高一種免（地理歴史）
		高一種免（公民）
		高一種免（情報）
		高一種免（商業）

## 2 大学院研究科専攻等の課程

研究科名	専攻等名	認定を受けている免許状の種類
政治学研究科	政治学専攻	中専免（社会）
		高専免（地理歴史）
		高専免（公民）
経済学研究科	経済学専攻	中専免（社会）
		高専免（地理歴史）
		高専免（公民）
		高専免（商業）
スポーツ・システム研究科	スポーツ・システム専攻	中専免（保健体育）
		高専免（保健体育）
工学研究科	機械工学専攻	高専免（工業）
	電気工学専攻	中専免（技術）
		高専免（情報）
		高専免（工業）

	建設工学専攻	高専免（工業）
法学研究科	法学専攻	中専免（社会）
		高専免（公民）
総合知的財産法学研究科	総合知的財産法学専攻	中専免（社会）
		高専免（公民）
人文科学研究科	人文科学専攻	中専免（社会）
		中専免（国語）
		高専免（地理歴史）
		高専免（国語）
		高専免（書道）
	教育学専攻	幼専免
		小専免
		中専免（社会）
		中専免（保健体育）
		高専免（地理歴史）
		高専免（公民）
		高専免（保健体育）
グローバルアジア研究科	グローバルアジア専攻	中専免（社会）
		高専免（地理歴史）
		高専免（公民）

## 大学としての全体評価

令和3年の教育職員免許法施行規則等の一部改正に伴い教職課程の自己点検・評価の実施及びその結果の公表が義務化されることになりました。

本学は、平成8年から3年に一度のサイクルで自己点検・評価を行っておりますが、教職課程に特化した自己点検・評価は今回が初めての実施となります。

教職課程の自己点検・評価の実施にあたっては、全学的に教職課程を実施するための教職課程運営センターが中心となり検討を進め、一般社団法人全国私立大学教職課程協会が示す教職課程自己点検評価基準に基づき実施することとしました。

教職課程の自己点検・評価報告書の作成にあたっては、まず学部・研究科等ごとに教職課程の自己点検・評価シートを作成し、これらを集約して全学の教職課程自己点検・評価報告書を作成しました。

これにより、学部・研究科等及び全学の教職課程に係る現状、長所・特色、課題等が明確になったと考えています。

本学は建学の精神のもと「国を思い、世のため、人のために尽くせる人材『国土』の養成」を使命としており、教職教育の充実もまた、人材養成の一つとして重きをおいております。

今回の自己点検・評価により明らかとなった長所・特色についてはさらに活かし、課題については計画的に解消し、なお一層質の高い教職課程教育を実施していくこととして、大学としての全体評価といたします。

結びに、「令和4年度教職課程自己点検・評価報告書」の作成にあたり、ご尽力いただいた教職課程運営センター運営委員会委員、並びに各方面でご協力賜った教職員の皆様に敬意を表し、心から感謝申し上げます。

国士舘大学

学長 佐藤 圭一

目 次

I. 教職課程の現状及び特色	1
II. 基準領域ごとの自己点検・評価	
基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み	3
基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援	7
基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム	11
III. 総合評価	15
IV. 「教職課程自己点検・評価報告書」作成プロセス	16
V. 現状基礎データ票	17

## I 教職課程の現状及び特色

### 1 現状

- (1) 大学名：国士舘大学
- (2) 所在地：世田谷キャンパス 東京都世田谷区世田谷四丁目28番1号  
 町田キャンパス 東京都町田市広袴一丁目1番1号  
 多摩キャンパス 東京都多摩市永山七丁目3番1号
- (3) 学生数及び教員数（令和4年5月1日現在）  
 学生数：評価対象学部 12,388名／学部全体 12,388名  
 評価対象研究科（修士課程）245名／研究科全体 287名  
 教員数：教職課程科目担当 244名／大学全体 947名

### 2 特色

創立者柴田徳次郎による大正6年の私塾「国士舘」を建学の基とする本学は、「国士舘設立趣旨」でうたわれているように、吉田松陰の精神を範としつつ、日々の「実践」のなかから心身の鍛錬と人格の陶冶をはかり、国家社会に貢献する智力と胆力を備えた人材を養成することを目的としてきた。

「活学」という考えのもとに、学ぶ者みずからが不断の「読書・体験・反省」と「思索」を実践しつつ、「誠意・勤労・見識・気魄」の四徳目を涵養することを教育理念に掲げる本学は、歴史と伝統において、教員養成の充実もまた、人材養成の一つとして重視している。

本学ではすべての学部学科及び研究科で教職課程を履修することができ、幼稚園教諭、小学校教諭、中学校教諭、高等学校教諭、特別支援学校教諭、養護教諭の教職課程を設置し、幅広く教員養成をおこなっていることが本学の特色といえる。大学院研究科等においては、8研究科11専攻の課程で専修免許状取得に係る教職課程を設置している。

その中でも、教員養成を主たる目的とする学科等を複数有していることも本学の特色といえる。文学部教育学科初等教育課程においては、幼稚園教諭一種免許状、小学校教諭一種免許状を取得することができ、課程創設50余年を通して初等教員としての実践的指導力を具備した人材の育成を目的としてきている。さらに、平成20年に開設した体育学部こどもスポーツ教育学科では、小学校教諭一種免許状、中学校教諭一種免許状（保健体育）、高等学校教諭一種免許状（保健体育）を取得することができ、さまざまな体育・スポーツ活動を通して健やかな心身を身に付け、主に小学校の教育者としての高い専門性と具体的な教育実践力を備えた優れた教員の育成を目指している。

因みに、令和3年度学部卒業生2,824名の内、468名が東京都教育委員会への「大学一括申請」で教育職員免許状を取得している。

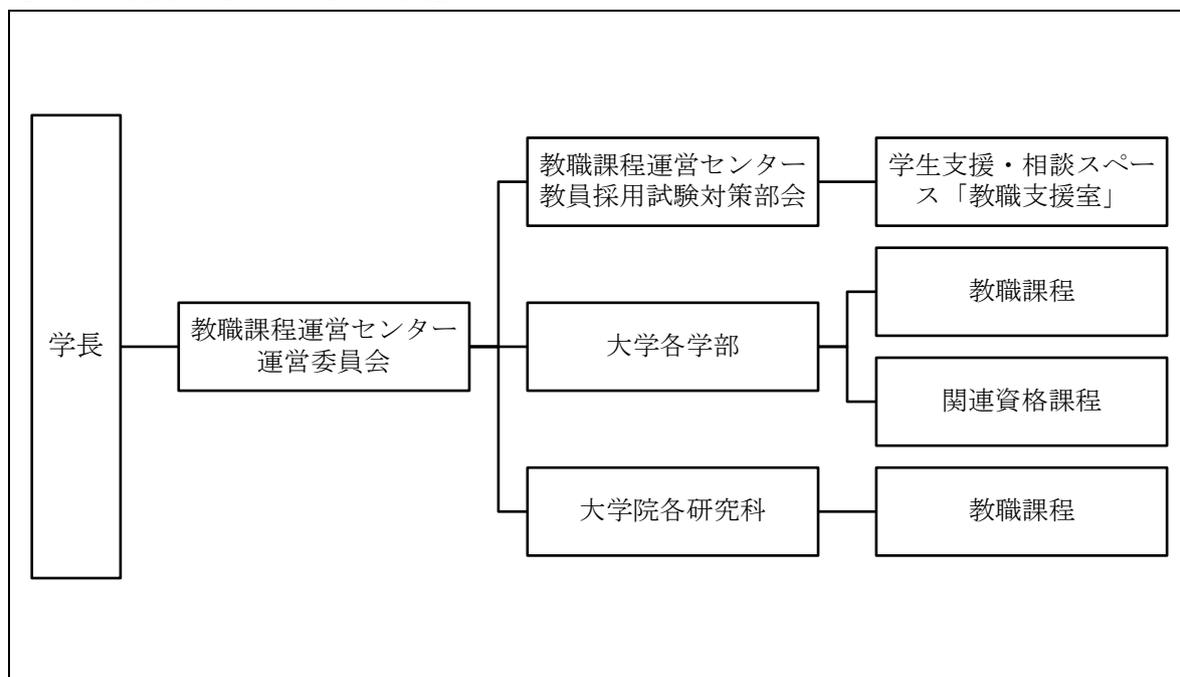
また、平成31年4月1日より文学部教育学科中等教育課程に特別支援学校教諭の教職課程

を、令和4年4月1日より工学研究科電気工学専攻に中学校教諭専修免許状（技術）及び高等学校教諭専修免許状（情報）の教職課程を設置し、本学の歴史と伝統にのっとりつつ、社会的動向をふまえて、教職課程の充実を図っている。

教職課程に関する組織的取組については、3キャンパスにわたる教職課程を円滑に実施するために平成21年に「教職課程運営センター」を設置し、同時にセンターの管理運営に関する事項を協議するため、「教職課程運営センター運営委員会」を設置して教職課程の運営をおこなっている。各教育委員会等との連携についてもこのセンターを窓口として対応している。

教育の質向上に係る取組としては、運営委員会の下に「教員採用試験対策部会」を置き、同時に平成26年4月より学生支援・相談スペースとして全キャンパス（世田谷・町田・多摩）に「教職支援室」を設置している。教職支援室には小学校や中学校、高等学校等の校長経験者を「教職支援アドバイザー」として配置しており、教員を目指す全ての学生の教職課程における相談や、教員採用試験に向けてのサポートを行っている。

【本学の教員の養成に係る組織図】



## II 基準領域ごとの自己点検・評価

### 基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

#### 基準項目 1-1 教職課程教育に対する目的・目標を共有

##### (1) 基準項目 1-1 の現状説明

教職課程教育にあたっては、建学の精神、教育理念、教育指針を根幹に社会的動向を踏まえ、「専門職として必要な資質・能力を有する教員」の養成を理念とし、「人間性が豊かな誠意（真心）ある教員」、「職務において勤労（実践力）でもって取り組む教員」、「教科や児童・生徒指導において適切な見識（判断力）を持ちうる教員」、「教職において気魄（責任感）を有する教員」の養成を行うことを目標としている。

各学部では、この目標を踏まえたディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを策定し、組織としてその共有を図っている。また、教職課程運営センター主催で「教職課程科目担当者研修会」を毎年実施しており、プログラムの中に教職課程運営センター運営委員会委員長による「教職課程運営センター運営委員会活動報告及び国士舘大学の教職課程の状況報告」を用意しており、教職課程の目的・目標を含め関係教職員間で情報共有の上、教職課程教育を実施している。教職課程を履修する学生に対しては、教職課程履修要項において育成を目指す教師像を明記し、教職課程履修ガイダンス等において周知、共有を図っている。

なお、こうした教職課程教育に係わる情報については、国士舘大学教職課程情報公開サイトに明記し、広く周知・共有を図っている。

##### (2) 基準項目 1-1 の長所・特色

教職課程教育に対する目的・目標の共有等を行う場として、「教職課程科目担当者研修会」を実施していることが長所・特色としてあげられる。そこでは、専任・非常勤を含めた教職課程科目担当者が一堂に会して教職課程教育をめぐる動向や本学の現状を共有した取組を進める基盤となっている。また、全学的取組ではないが、教職課程に特化した会議体を設置し、学部としての教職課程の在り方を検討するなかで、学部内での教職課程教育の共有を図っている学部の存在も一つの特色だといえる。

##### (3) 基準項目 1-1 の取り組み上の課題・改善策

教職課程の情報公開サイトに大学全体に係る教員養成の理念・構想及び各学部における教員養成の理念・構想を明記しているが、大学院研究科専攻においては明記していないため、早急に改善を図る。

##### (4) 根拠資料(エビデンス)

資料 No.	資料名	備考
【資料 1-1-1】	国士舘大学 教職課程情報公開サイト（教員養成	

	に対する理念・構想及び養成する教員像) <a href="https://www.kokushikan.ac.jp/information/disclose/education/idea/idea_images.html">https://www.kokushikan.ac.jp/information/disclose/education/idea/idea_images.html</a>	
【資料 1-1-2】	教職課程履修要項	
【資料 1-1-3】	令和 3 年度教職課程科目担当者研修会 実施要項	
【資料 1-1-4】	2021 年度理工学部各種担当表	
【資料 1-1-5】	文学部内設置委員会 同委員会一覧	
【資料 1-1-6】	21 世紀アジア学部教職課程内規	

## 基準項目 1－2 教職課程に関する組織的工夫

### (1) 基準項目 1－2 の現状説明

本学の教職課程に関する組織として、全学的に教職課程を実施するために「教職課程運営センター」を設置し、学部との連携分担のもとで運営される仕組みが整っている。

教職課程の専任教員については、教職課程認定基準を踏まえて配置するとともに、研究者教員と実務家教員とをバランスよく配置している。

教職課程のFD・SDとしては前述の教職課程科目担当者研修会の実施の他、教職課程を担当する教職員が学外機関（例：全国私立大学教職課程協会、教員養成課程を有する大学との連絡協議会（埼玉県教育委員会）、川崎市教員等育成協議会、都内私立大学教職課程事務担当者懇談会、大学教務実践研究会 等）の研究会に参加し、教職課程運営センター運営委員会等で情報共有や意見交換等をおこなっている。

教職課程教育を行う上での施設・設備としては、全キャンパスに「教職支援室」を設置している他、世田谷キャンパスには教職課程室、町田キャンパスには教職課程演習室として英語科演習室、社会科演習室を設置している。また、図書館には教職課程教育を行う上で十分な図書を所蔵しており、学生が自由に学習することができるグループスタディ室やラーニング・コモンズスペースを複数設置している等、学生の自主的な学習を支える環境を整えている。

教職課程に関する情報公開としては、国士舘大学教職課程情報公開サイトにて法令に基づき適切に情報公開をおこなっている。

### (2) 基準項目 1－2 の長所・特色

教職課程運営センターには、必要に応じて専門部会を置くことができるとしており、「教職実践演習企画運営部会」、「教員採用試験対策部会」を設置し、教職課程教育の充実を図っていることは長所・特色といえる。

また、全キャンパスに「教職支援室」を設置していることも長所・特色といえる。「教職支援室」では、進路や勉強方法に関する相談、教育実習に関する相談、小論文・志願書添削、面接練習、模擬授業の他、自習室としての利用を可能としている。「教職支援室」には教職関連図書を整備しており、教職を目指す学生が利用している。

### (3) 基準項目 1－2 の取り組み上の課題・改善策

教職課程教育に係わる組織上の課題は特に見受けられないが、その教育の質的向上に向けてFD・SDのさらなる充実を図ることが課題だともいえる。

### (4) 根拠資料(エビデンス)

資料 No.	資料名	備考
【資料 1-2-1】	教職課程運営センター規程	
【資料 1-2-2】	令和 3 年度・令和 2 年度 教職課程運営センター運営委員会 議題一覧表	

【資料 1-2-3】	教職課程演習室配置図	
【資料 1-2-4】	国士舘大学 図書館所蔵教職関連書籍一覧	
【資料 1-2-5】	施設・設備の利用および手続き	
【資料 1-2-6】	国士舘大学 教職課程情報公開サイト <a href="https://www.kokushikan.ac.jp/information/disclose/education/">https://www.kokushikan.ac.jp/information/disclose/education/</a>	
【資料 1-2-7】	教職課程運営センター専門部会委員一覧	
【資料 1-2-8】	令和 3 年度 教職支援室図書購入表	
【資料 1-2-9】	令和 3 年度 教職支援室利用状況報告書	

## 基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援

### 基準項目2-1 教職を担うべき適切な人材（学生）の確保

#### (1) 基準項目2-1の現状説明

本学では大学全体の入学者受入れの方針「アドミッション・ポリシー」として、以下の4つを掲げている。

#### 国士舘大学が求める学生像

##### 1. 国士舘精神への共感

国士舘大学が掲げる建学の精神、教育理念・教育指針、教育研究上の目的に共感し、世のため、人のために尽くせる人材「国士」になろうとする意欲がある者。

##### 2. 学問への意欲

志望する学問分野に関心を有し、幅広い教養と高い専門性を身に付けることを目標に、努力を惜しまずやり通す意欲がある者。

##### 3. 多様性と主体性への姿勢

人間としての感性を高く持って多様な価値観を理解し、主体的に行動して公共に尽くそうとする姿勢がある者。

##### 4. 国士舘教育への理解

日本文化の伝統技術とその基盤にある礼儀・作法、身を守り社会の要請に応える防災力、困難な時代を生き抜く持続的な就業力を身に付けようとする意欲がある者。

入学生に対してはこれらを踏まえた上で、4月に教職課程履修ガイダンスを実施している。

また、教員養成の目標を達成すべく在学生についても毎年教職課程履修ガイダンスを実施して各学年に対する指導を行っている。

なお、教職課程履修者に配付する「教職課程履修要項」において履修上の諸注意を明記しており、将来教職に就くことを強く希望するとともに、教職の重大な使命を自覚することが大切であり積極的・真摯な姿勢で取り組むこととして、単に免許状の取得のみを目的とすることがないように指導している。

さらに、21世紀アジア学部においては各学年の授業科目を段階的に履修するために、学年別の学力基準を設けており、それを「継続判定試験」等によって測定している。

また、教職課程履修者については教職課程における自己評価を「教職課程履修カルテ」に記載することとなっており、指導担当教員が学生個々の状況を確認している。

#### (2) 基準項目2-1の長所・特色

例年、学部在学生の内、約27%の学生が教職課程を履修しており、多くの学生が教職を目指していることは本学の特色といえる。

これは本学が教員養成の充実も人材養成の一つとして重視しており、全学部学科等で教育職員免許状の取得が可能であること等が要因としてあげられる。

(3) 基準項目2-1の取り組み上の課題・改善策

特色として、教職課程履修者数の多さをあげたが、一方、当該教職課程に即した適切な規模の履修学生となっているかは検討する必要がある。

また、本学の多くの学部学科等では教職課程の開始・継続時の基準を設定していない。このことも含め検討する必要がある。

(4) 根拠資料(エビデンス)

資料No.	資料名	備考
【資料2-1-1】	国士舘大学ホームページ（国士舘大学の3つのポリシー） <a href="https://www.kokushikan.ac.jp/information/policy/three_policies.html">https://www.kokushikan.ac.jp/information/policy/three_policies.html</a>	
【資料2-1-2】	令和3（2021）年度 教職課程運営センター運営委員会活動報告	
【資料2-1-3】	教職課程履修要項	【資料1-1-2】 に同じ
【資料2-1-4】	21世紀アジア学部教職課程内規	【資料1-1-6】 に同じ
【資料2-1-5】	教職課程履修カルテ	
【資料2-1-6】	令和3年度 教職課程科目担当者研修会資料「本学の教職課程の状況について」	

## 基準項目2-2 教職へのキャリア支援

### (1) 基準項目2-2の現状説明

教職へのキャリア支援としては、①教職課程運営センターによる支援②学部学科等による支援③キャリア形成支援センターによる支援と、大きく3つに分類することができる。

教職課程運営センターによる支援としては、教員採用試験対策等に関する講座（教員採用試験面接練習・研修会、教員採用試験対策ガイダンス、教員採用試験合格体験報告会、赴任前実践力養成講座 等）の開講や、教育委員会の担当者による教員採用試験学内説明会を開催している。

教員採用試験面接練習・研修会及び教員採用試験合格体験報告会においては、卒業生に講師やパネルディスカッションにおいてパネリストとして参加していただく等、在 student と卒業生との連携を図っている。(令和2年度及び令和3年度においては新型コロナウイルス感染症の影響により学内者のみで実施)

また、教職に係る情報については掲示、学生ポータルサイトを通じて学生に提供しており、卒業生についても希望者にはメールで情報配信をしている。

学部学科等による支援としては、担当教員による個別指導の他、例えば体育学部こどもスポーツ教育学科ではガイダンス以外に先輩を交えたグループ面談などを行い、教職課程で学ぶことの魅力等を共有する機会を設けており、さらに教職へのキャリア支援として3年生全員を対象とした合同ゼミを実施している。合同ゼミは、年間指導計画に基づき、教育現場で働く卒業生や校長等から話を聞く機会を設定している。また、教員採用試験対策では、直前対策を7月～8月に開催するとともに、自主的な勉強会を組織して、2年次秋期終了後から開始して、論文指導を行っている。

21世紀アジア学部では4年間を通じ、学生を教職専門ゼミに配属している。これにより学生のニーズを直接把握することのみならず、学生のモチベーションの維持にも有意となっている。さらに、教員採用試験模試を1月に実施（2年生は任意、3年生は原則必須）しているなど教員就職率を高めるための工夫をしている。

キャリア形成支援センターでは世田谷及び多摩キャンパスで教員採用試験対策講座（東京アカデミー）を開講しており一定の参加者を確保している。また、学生ポータルサイトの「求人・企業検索」又は「求人検索NAVI」を活用することにより、学生自ら希望する求人情報を検索することができる体制を整えている等、教職に就くための各種情報を適切に提供している。

### (2) 基準項目2-2の長所・特色

教職へのキャリア支援としては、全学的に支援をおこなうための体制を整えていることが長所・特色であるといえる。これにより学生は自身の適性に応じた支援を受けることができる。

また、教職課程運営センターにて全学部学科等対象の講座を開講することにより、学部学科等間の垣根を越えて学生間の連携を図ることができることも長所・特色といえる。

### (3) 基準項目2-2の取り組み上の課題・改善策

全学的には卒業生との組織的な連携がやや希薄であるといえる。卒業生と組織的に連携するための体制づくりについて検討する必要がある。

(4) 根拠資料(エビデンス)

資料 No.	資料名	備考
【資料2-2-1】	令和3(2021)年度 教職課程運営センター運営委員会活動報告	【資料2-1-2】 に同じ
【資料2-2-2】	令和元年度第2回、第3回教員採用試験面接練習・研修会 参加申込書	
【資料2-2-3】	令和元年度 赴任前実践力養成講座実施要項	
【資料2-2-4】	卒業後の教職課程に係る情報配信に関するアンケート	
【資料2-2-5】	体育学部こどもスポーツ教育学科合同ゼミ年間計画	
【資料2-2-6】	体育学部こどもスポーツ教育学科勉強会年間予定	
【資料2-2-7】	21世紀アジア学部3年次ゼミ募集ポスター(英語科教職、社会科教職)	
【資料2-2-8】	21世紀アジア学部教員採用試験模試実施要項	
【資料2-2-9】	令和3年度(2021年度)教員採用試験対策講座一覧(キャリア支援課管轄分)	
【資料2-2-10】	国士舘大学ホームページ(求人・企業検索) <a href="https://www.kokushikan.ac.jp/career/support/system/">https://www.kokushikan.ac.jp/career/support/system/</a>	

## 基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム

### 基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

#### (1) 基準項目 3-1 の現状説明

本学では、建学の精神・教育理念・教育指針・教育研究上の目的を踏まえて大学全体のカリキュラム・ポリシーを策定している。大学全体のカリキュラム・ポリシーでは、「教育課程と内容」「教育方法」「学修成果の評価」の3項目に分けて記載しており、「教育方法」では講義支援システムを活用することで、講義の予習・復習をはじめ、アクティブ・ラーニングや問題発見・解決型学習、反転授業などの実施を容易にし、学んだ知識の理解を深めること等を明示している。

さらに大学全体としての基本的な考え方にに基づき、それぞれの学部（学科等）・研究科ごとにカリキュラム・ポリシーを策定している。

教職課程においても同様に国士舘大学全学に係る教員養成の理念・構想及び各学部における教員養成に対する理念構想を策定しており、教職課程カリキュラムの編成にあたってはこれらを具現化するために、前述のことに加え教職課程コアカリキュラムや中央教育審議会の答申等を踏まえ実施している。

なお、教職課程運営センターにおいて、「教職課程及び関連資格課程に係るカリキュラム及び担当教員に関する事項」「教育実習及び介護等体験の運営並びにその充実改善に必要な事項」を業務としているが、これらについては当該学部教授会の議を経ることとしている。

近年では「教育の方法及び技術」「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」の授業科目開講年次を見直し、各教科の指導法における ICT の活用について修得する前に、各教科に共通して修得すべき ICT 活用能力を総論的に修得できるようにするなど、教職課程カリキュラムの体系についても適宜見直している。

シラバスについては、各授業科目の学習内容や評価方法等を学生に明確にできるよう「シラバス作成ガイド」を作成しており、シラバスの第三者チェックを実施している。

教育実習の実施にあたっては、各学部等により教育実習参加条件を定めており、学部等の主体的な関与の下で適切な指導を行っている。

また、教職課程履修者については教職課程における自己評価を「教職課程履修カルテ」に記載することとなっており、指導担当教員が学生個々の状況を確認している。

「教職実践演習」においては「教職課程履修カルテ」の活用等により学生のこれまでの教職課程の履修履歴を把握し、これらを踏まえた指導を行い、不足している知識や技能等を補う等、「教職実践演習の実施にあたっての留意事項（平成 20 年 10 月 24 日課程認定委員会決定）」に基づき適切に実施している。

#### (2) 基準項目 3-1 の長所・特色

各学部学科等の専門性を活かした教職課程教育を重視していることが長所・特色であるといえる。

また、「教職実践演習」について、教職課程運営センターに専門部会（教職実践演習企画運営部会）を設置し、授業内容の企画検討や運営を行っていることは、本学の特色である。

(3) 基準項目3-1の取り組み上の課題・改善策

すべての学部において、年間の履修上限単位数を50単位未満に設定しているが、卒業所要単位に含まれない教職課程科目については当該上限単位数に含まない学部学科等が多い。単位の実質化が十分に図られるよう、教職課程課程カリキュラムについても検討する必要がある。

教育実習の実施にあたっては、各学部等により教育実習参加条件を定めているが、その内容に大きな隔たりがある。大学としての教育実習生の質保証の観点から改めて検討する必要がある。

(4) 根拠資料(エビデンス)

資料No.	資料名	備考
【資料3-1-1】	国士舘大学ホームページ（国士舘大学の3つのポリシー） <a href="https://www.kokushikan.ac.jp/information/policy/three_policies.html">https://www.kokushikan.ac.jp/information/policy/three_policies.html</a>	【資料2-1-1】 に同じ
【資料3-1-2】	国士舘大学 教職課程情報公開サイト（教員養成に対する理念・構想及び養成する教員像） <a href="https://www.kokushikan.ac.jp/information/disclose/education/idea/idea_images.html">https://www.kokushikan.ac.jp/information/disclose/education/idea/idea_images.html</a>	【資料1-1-1】 に同じ
【資料3-1-3】	シラバス作成ガイド	
【資料3-1-4】	令和4年度 シラバスチェックについて（依頼）	
【資料3-1-5】	教職課程履修要項	【資料1-1-2】 【資料2-1-3】 に同じ
【資料3-1-6】	シラバス（授業科目「教職実践演習（幼・小）」「教職実践演習（小・中・高）」「教職実践演習（中・高）」「教職実践演習（養護）」）	
【資料3-1-7】	学生便覧（各学部）	

## 基準項目3-2 実践的指導力養成と地域との連携

### (1) 基準項目3-2の現状説明

実践的指導力養成の場としては教育実習の実施が主となる。一方、教職課程の科目ではないが、一部の学部学科等においては、専門科目の中に実践的指導力を養成する科目を置いている。体育学部体育学科では「教職インターンシップ」、文学部教育学科初等教育課程では「学校インターンシップ」を開設している他、文学部教育学科中等教育課程の授業科目「教育学の基礎A」では、学校訪問を行い授業観察の場を設けるなど、実践的指導力を養成する機会の充実を図っている。

また、本学は世田谷プラットフォーム協定大学であり、世田谷区教育委員会事務局が実施する「区立幼稚園、小・中学校等への教育活動支援事業」の参加を学生に促し、学校現場における学級運営支援、学校行事等支援、部活動支援、配慮を要する児童・生徒の見守りなどを通じ、実践力を養成している。

学校現場におけるボランティア等については、学生部学生・厚生課及び教務部教務課にて掲示及び学生ポータルサイトを活用して学生に周知しており、「令和4年度「ちば！教職たまごプロジェクト」」には15名の学生が申し込みをしている等、実践的指導力を養成する機会を適切に提供している。

さらに、実践的指導力の養成にあたっては教職課程運営センターによる「赴任前実践力養成講座」の実施の他、埼玉県教育局市町村支援部小学校人事課職員を講師として大学に招き、教員志望者向け不祥事防止講座を実施している。

一方、介護等体験については新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年度からは代替措置（文部科学大臣決定1（4）の規定による措置）で対応をしている。

これらの様々な体験活動については、課外活動等における自己評価として教職課程履修カルテに記載することになっており、指導担当教員が学生個々の状況を確認している。

なお、本学では東京教師養成塾（東京都教育委員会）、彩の国かがやき教師塾（旧：埼玉教員養成セミナー）（埼玉県教育委員会）、横浜市教育委員会、相模原市小学校長会との連携に加え、川崎市教員等育成協議会に参加する等、教育委員会等との組織的な連携協力体制を整えている。

### (2) 基準項目3-2の長所・特色

本学では平成26年4月より学生支援・相談スペースとして全キャンパス（世田谷・町田・多摩）に「教職支援室」を設置している。

「教職支援室」には小学校や中学校、高等学校等の校長経験者を「教職支援アドバイザー」として配置しており、地域の子どもの実態や学校における教育実践の最新の事情についての個別指導を可能とする体制を整えていることは、本学の長所・特色といえる。

### (3) 基準項目3-2の取り組み上の課題・改善策

教育実習の指導状況については学部学科等による指導体制の差があり、教育実習の充実を図るために指導の在り方について検討する必要がある。

(4) 根拠資料(エビデンス)

資料 No.	資料名	備考
【資料3-2-1】	シラバス(授業科目「教職インターンシップ」「学校インターンシップ」「教育学の基礎A」)	
【資料3-2-2】	世田谷プラットフォーム協定大学 情報サイト <a href="https://setagaya-univ.jp/about/">https://setagaya-univ.jp/about/</a>	
【資料3-2-3】	令和3年度 学校現場体験等一覧	
【資料3-2-4】	令和3年度 学校現場におけるボランティア及びアルバイト状況一覧表(学生・厚生課管轄分)	
【資料3-2-5】	令和3(2021)年度 教職課程運営センター運営委員会活動報告	【資料2-1-2】 【資料2-2-1】 に同じ
【資料3-2-6】	令和3年度教育実習ならびに介護等体験に関する対応について	
【資料3-2-7】	東京教師養成塾 協定書	
【資料3-2-8】	第1期彩の国かがやき教師塾マスターコースー募集要項ー	
【資料3-2-9】	横浜市教育委員会と国士舘大学との連携・協働に関する協定書	
【資料3-2-10】	相模原市立小学校長会と国士舘大学との教育実習受け入れに関する連携協定書	
【資料3-2-11】	川崎市教員等育成協議会設置要綱	
【資料3-2-12】	教職課程履修カルテ	【資料2-1-5】 に同じ
【資料3-2-13】	国士舘大学ホームページ(教職支援室) <a href="https://www.kokushikan.ac.jp/career/teacher_training/teacher_support/">https://www.kokushikan.ac.jp/career/teacher_training/teacher_support/</a>	

### Ⅲ. 総合評価

本学における教職課程教育にあたっては、建学の精神、教育理念、教育指針を根幹に社会的動向を踏まえ策定した国士館大学全学に係る教員養成の理念・構想及び、各学部等における教員養成の理念・構想に基づき実施している。すべての学部学科等に教職課程を設置していることは本学の特色であり、全学的に教職課程を実施するために「教職課程運営センター」を設置し、センターの管理運営に関する事項を協議するため、「教職課程運営センター運営委員会」を設置して教職課程の運営をおこなっている。

本学の教職課程教育の総合評価としては、「教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み」「学生の確保・育成・キャリア支援」「適切な教職課程カリキュラム」それぞれの基準領域ごとの自己点検・評価を踏まえ、教職課程教育は適切に実施しているものと評価することができる。

一方で、次のような課題も明らかとなった。

- (1) 教職課程履修者数の多さが特色である一方、履修学生数の規模が適切か検討する必要がある。
- (2) 卒業所要単位に含まれない教職課程科目については年間の履修上限単位数に含まない学部学科等が多いため、単位の実質化が十分に図られるよう、教職課程カリキュラムについて検討する必要がある。
- (3) 教育実習の実施にあたっては、各学部等で定めている実習参加条件に大きな隔たりがあるので、質保証の観点から改めて検討する必要がある。
- (4) 学部学科等の令和3年度卒業生について468名が教育職員免許状を取得しているものの、教職に就いた卒業生数は174名と免許状取得者数に対し半数に満たない現状があり、キャリア支援という観点から検討する必要がある。

今日の学校教育を取り巻く環境はめまぐるしく変化をしている。特に、令和4年12月に答申された中央教育審議会『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～においては、養成段階の改革の方向性についても指摘されている。

教育実習等の在り方の見直し、ICTを始めとした時代に即した教職課程の不断の見直し、特定分野に強みを持った教師の養成による免許取得の多様化等が養成の課題として指摘されている。

上述の本学の課題と照らし合わせ、教育実習の多様化に合わせた教職課程全体の見直し、理論と実践の往還を視野に入れた時代の変化に応じた教育内容の検討、多くの種類の免許を出している本学での今後の在り方の検討等、「令和の日本型学校教育」を担うにふさわしい教師を育成すべく、教職課程の不断の見直しをおこない教職課程教育を実施していく。

## IV. 「教職課程自己点検・評価報告書」作成プロセス

本学の令和4年度教職課程の自己点検・評価の実施にあたっては、教職課程運営センター運営委員会を中心に以下のプロセスで議論を進めてきた。

### <令和3年度>

令和3年6月及び12月に教職課程運営センター運営委員会にて実施内容等について懇談をおこない、令和4年1月には「実施体制」「実施期間・周期」「実施対象」「点検評価の方法」を同委員会にて決定し、大学全体の内部質保証に責任を負う組織である「内部質保証推進委員会」及び、本法人及び本学の管理運営並びに教育研究活動等の状況について、自ら点検・評価を行うための組織である「国士舘自己点検・評価委員会」委員長へ教職課程の自己点検・評価の実施について報告し、関係者への周知を行った。

その後、令和4年2月及び3月に教職課程運営センター運営委員会にて教職課程の自己点検・評価の具体的な実施方法等について検討・協議をおこない、「教職課程自己点検・評価のワーキンググループ」を設置した。

### <令和4年度>

令和4年7月、当該ワーキンググループにて教職課程の自己点検・評価に係る評価項目及び評価の観点等について検討を進め、教職課程運営センター運営委員会の承認を経て、教職課程を設置する学部長及び研究科長あてに各学部等における自己点検・評価シートの作成を依頼した。

令和4年10月以降、各学部等から提出された自己点検・評価シートを基に、ワーキンググループを中心に国士舘大学全体としての教職課程の自己点検・評価を行い、報告書（案）をとりまとめた。令和5年1月（及び2月）に報告書（案）について、学部及び研究科等の確認、教職課程運営センター運営委員会の協議並びに学長の承認を経て、令和5年2月に「令和4年度教職課程自己点検・評価報告書」の完成に至った。

なお、「令和4年度教職課程自己点検・評価報告書」については、「内部質保証推進委員会」「国士舘自己点検・評価委員会」へ提出し、当該委員会にて教職課程の自己点検・評価結果の報告を行う。

## V. 現状基礎データ票

令和4年5月1日現在

設置者： 学校法人国士舘			
大学名称： 国士舘大学			
1 (学部学科等の課程) 卒業者数、教員免許取得者数、教員採用者数等			
①	令和3年度卒業者数		2,824
②	①のうち、就職者数(企業、公務員等を含む)		2,206
③	①のうち、教員免許取得者の実数(複数免許取得者も1と数える)		468
④	②のうち、教職に就いた者の数(正規採用+臨時的任用の合計数)		174
⑤	④のうち、正規採用者数		62
⑥	④のうち、臨時的任用者数		112
2 (大学院研究科専攻等の課程) 修了者数、教員免許取得者数、教員採用者数等			
①	令和3年度修了者数		89
②	①のうち、就職者数(企業、公務員等を含む)		42
③	①のうち、教員免許取得者の実数(複数免許取得者も1と数える)		5
④	②のうち、教職に就いた者の数(正規採用+臨時的任用の合計数)		5
⑤	④のうち、正規採用者数		2
⑥	④のうち、臨時的任用者数		3
3 教員組織			
	専任	その他	計
教員数	309	638	947
相談員・支援員など専門職員数 ・教職支援アドバイザー 7名			